国際ロータリー第 2550 地区

黒 磯 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ 会 報

国際ロータリー会長：イアン・ライズリー
第 2550 地区ガバナー：太城　敏之
事務所：〒325-0826 宇都宮市西原町 142
宇都宮グランドホテル内
TEL：028-651-2550
FAX：028-651-2551
E-mail:m2550@agate.plala.or.jp

ロータリー：
変化をもたらす

会　長：髙木　茂　　幹　事：稲垣　政一
事務局：(有)稲垣商事内　稲垣　政一
〒325-0038 那須塩原市豊浦北町71-3
TEL:0287-64-1062・FAX:0287-64-1751
E-mail: wk857@waltz.plala.or.jp
例　会：毎週水曜日 12:30 - 13:30
割烹石山　那須塩原市本町 5-5

第2787回　髙木茂年度　第6回　会報　2017-08-30　司会　藤﨑善隆 君

会長挨拶　髙木 茂 会長

秋は食欲の秋、実りの秋、スポーツの秋などと言います。涼しくなってくると食欲もわいてきます。

秋には美味しいものが店先に並びますが、私は茄子が好きです。浅漬や、焼いてもよいし、天ぷらにしてもよいし、何でも美味しいです。そんなに美味しい秋茄子を「嫁に食わすな」と言うのはなんて意地悪なお姑さんだと思っておりましたが、それは誤解でした。

漢方の世界では自然界のあらゆるものを陰と陽に分けますが、茄子は強い陰性を持った食べ物と考えられ、このためこれから子供を産まなければならないお嫁さんにそんなものは食べさせられない、「強く元気な子を産んでほしい」という願いから出たのが、このことわざだそうです。

実際、秋茄子にはソラニンと言う成分が含まれていて、これを体内にたくさん取り込むと、身体が冷えて流産しやすくなるとも言われております。嫁の身体を思ってできたことわざなのに、嫁いびりのように受け取られているのは誤解です。子供を産むお嫁さんには秋茄子は食べさせないようにしてください、と皆さんも伝えるだけではなく、そのわけも説明して下さい。

秋は「天高く馬肥ゆる秋」と言います。秋は空が澄み渡って高く晴れて、馬は肥えてたくましくなるという意味です。馬と同じく何でも美味しく食べられるのは健康な証拠ですが、馬のように体重が肥えないようにしたいものです。

以上で会長挨拶といたします。

幹事報告　稲垣 政一 幹事

- ガバナー事務所より9月のロータリーレートの連絡がありました。9月のロータリーレートは1ドル109円となります。
- 那須野巻狩まつり実行員会より「2017年那須野巻狩まつり」の推進体制についての連絡がありました。鈴木隆子社会奉仕委員長、相馬征志社会奉仕副委員長に連絡しました。
- 那須塩原市国際交流協会より第1回ミニコミュニティーMUSIC＆DANCEの連絡がありました。回覧しますのでご覧ください。
- 地区大会実行委員会より記念ワークショップ

出席報告　出席委員会　小野安正　君　　（出席規定の免除会員数5名）

例会日	会員数	出席数	欠席数	出席率	MU 数	修正出席率
本日　8月30日	37	32	5	91.4%		
前回　8月23日	37	32	5	88.6%	1	91.4%

欠席の場合は前日 9 時 30 分までに次のいずれかにご連絡を。電話 62-0128、FAX62-1076　（以上 石山桂子）
メール　qqvn2bz9k@sound.ocn.ne.jp

【ロータリーを語ろう】開催;アンケート募集の協力依頼が届きました。回覧しますのでご協力宜しくお願いします。

- 2016-2017年度RYLA委員会より、第15回高校生RYLAセミナー報告書が届きました。回覧しますのでご覧ください。
- ガバナー事務所より、ロータリー情報冊子の案内が届きました。大森貞男ロータリー情報委員会委員長に連絡しました。
- 国際ロータリー第2550地区国際大会推進委員長より、2018年トロント国際大会参加のお誘い連絡がありました。回覧しますのでご覧ください。
- 西那須野ロータリークラブより週報が届いております。回覧しますのでご覧ください。
- 本日例会後、第1回臨時理事役員会を開催します。理事役員の方はお残り下さい。

委員会報告　吉光寺 政雄 副会長

委員会報告、スマイルボックス共にありませんでした。

卓話

● 会報委員会　田中 徹 委員長

本年度は藤﨑副委員長と鳥居輝一委員での3名での担当となります。

尚、本日の卓話は脳みそにキノコが生え始まった田中の話よりもフレッシュな藤﨑副委員長が行いますので宜しくお願い致します。

● 会報委員会　藤﨑 善隆 副委員長

昨年7月に入会して初めての卓話です。よろしくお願い申し上げます。

私は高砂町の等覚院という寺の住職をしております、藤﨑善隆と申します。田中委員長より卓話をとのお話をいただき、どのようなお話をしたら良いのかと思案しておりましたが、まず、私が住職をしておりますお寺のことについてお話をさせていただこうと思います。

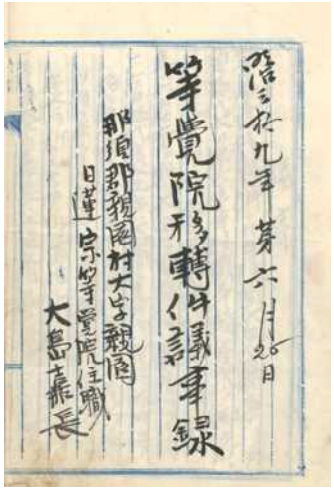
私がおりますのは等覚院という日蓮宗のお寺です。お寺には「山号」というものがついておりまして、等覚院の山号は「紫雲山」です。「紫雲山等覚院」というのが正式な、といいますか、フルネームということになります。現住所は高砂町で、宗派は日蓮宗です。鎌倉時代の人、日蓮聖人という方が開かれた宗派です。総本山は山梨県の身延山久遠寺です。日蓮宗の僧侶になるためには必ずこの身延山の信行道場というところで修行を行います。私も平成16年に修行に入りました。以来丸13年経過したことになります。

身延山久遠寺

等覚院というお寺は文久年間と言いますから、江戸時代の末、西暦でいうと1861年から1864年の間に親園村、現在の大田原市親園に創立ということになっています。正式な年は不明で、蓮珠院日長（中津原蓮珠）という方が開かれたということです。現在でも親園に当時の等覚院ゆかりのものと思われるお題目の碑があり、地元の方が大切に守っていて下さいます。その頃は「一乗軒」と称した「庵」のようなものであったと思われます。

その後明治9年に京都の大本山本圀寺の末寺として「紫雲山等覚院」を名乗ることになりました。寺号公称といいます。明治の初めと言いますと、所謂「廃仏毀釈」の嵐が吹き荒れる、仏教界にとっては非常に厳しい時期でありました。その中で遠く京都のお寺の末寺として寺号を公称するのはどういう理由であったのか、残された資料からではうかがい知ることはできません。色々な事情と苦労があったことだろうと思います。その後も困難な時期が続いたようで、先に述べた蓮珠上人の亡くなられた明治30年以降は住職が不在のような時期もあったのではないかと推測されます。

一方で黒磯の街に目を移してみます。ご承知の通り、現在の黒磯の街は明治以降、国道4号線の開通、東北本線黒磯駅の開業により拡大してきたものです。新しい街ですから、それまで神社もお寺もありませんでした。月江宮司さまもいらっしゃいますが、黒磯神社さんの創立が明治35年10月と伺っております。つまり、街が拡大するにつれて人々の拠り所として神社ができ、お寺も求められたようです。かといって、全くゼロの状態からお寺を作るのは難しかったようで、当時の黒磯の人々はお寺を移転してこようと考えました。明治39年のことです。そこで白羽の矢が当たったのが、親園村にあった等覚院でありました。元々親園の地にも檀家さんがありましたから反対意見もありましたが、当時の住職大島嘉長師などの説得によりご納得いただき移転が決議されました。



等覚院移転に関する議事録。明治39年6月の日付がある。

黒磯の街でお寺を迎えてくださる中心となったのが「人見三吉」という方です。今のヨロヅヤさんと田原屋さんの間の道を入った辺りの方だそうです。現在の境内地、材木町の墓地などを用意してくださったのに加え、本堂などの建設などにも多大な協力をされております。その本堂もすぐには建たず、建設途中で大風により倒れてしまったらしき記録もあり、詳しいことは不明ですが当初の予定通りには事は進まなかったようです。その頃の住職は移転時の住職大島嘉長師（第3世）、この後烏山町の妙光寺というお寺に異動しています。後を受けたのが杉本本有師（第4世）で、後に足尾町の本妙寺へ異動しています。

戦前は住職の異動はよく行われたようです。その後住職に入ったのが第5世大塚潮泰師で、私の曽祖父にあたります。少し先輩の方々は冬に太鼓を叩いて寒行に歩いていた姿をご存知の方もいらっしゃるかもしれません。

大塚潮泰師の住職在職中に終戦を迎え、お寺をめぐる環境も大きく変わりました。以前の住職は異動していると申し上げましたが、その後そういう事は無くなり、その後を受けたのが大塚本隆師（第6世）、私の祖父であり、その後の藤﨑善秀師（第7世）、私の父、そして第8世の私という具合に、良いか悪いかは別として血縁で住職を受け継いできております。

戦後、日野隆司氏の協力により昭和39年に現在の本堂が落慶し、昭和56年日蓮聖人700遠忌記念事業などを経て現在に至ります。

等覚院移転時の功労者
人見三吉氏

現本堂新築等に協力した
日野隆司氏

そのような経緯で現在に至るわけですが、今日年中行事として次のような行事を主に行っております。

- （大晦日～）元日・・・新年祝祷会（除夜の鐘）
- 2月3日・・・節分会
- 春彼岸中日・・・施餓鬼会
- 5月8日・・・釈尊降誕会（はなまつり）
- 9月8日・・・鬼子母神例祭
- 11月15日・・・宗祖御報恩会式

などです。

大晦日　除夜の鐘

宗祖御報恩会式

お寺の歴史を振り返ると、それはまさに地域の方々に支えられてきた歴史であることがわかります。そういう寺の住職としてなんとか恩に報いられるよう、いろいろな行事を企画しております。代表的なものがヨガ教室、そして今年初めて行ったなつまつりです。

ヨガ教室

なつまつりコンサート

一方で僧侶として、伝統を受け継ぎ、かつ次の世代に伝えていくために日々の勉強を続けていかなければなりません。「師資相承」の伝統の上に私たちは成り立っています。そうした中で本年7月に、外国人の沙弥、すなわち僧侶の卵というべき方々へ法要などのご指導をさせていただく機会がありました。私自身にとっても大変勉強になりました。こうして私たちが師匠から受け継いだことをそのまま次の世代に伝えていくことで、これまで守られてきた伝統をつなげていくことも私たちの仕事だと思っています。

日蓮宗国際センター（米国ヘイワード）

ロータリーの皆さまとご縁をいただいたのも、困難の時代を経て伝統を守ってきた先師の努力と地域の皆さまのお力によるものと思います。これを更につなげていけるよう努力していく所存です。

8月30日欠席（敬称略）

荒井昌一・石山桂子・澤田吉夫・髙木慶一
深町　彰

前回8月23日分メークアップ（敬称略）

澤田吉夫

次回例会　平成29年9月6日　担当　国際奉仕委員会

近隣クラブ例会日

○ 火曜日	西那須野/いとう屋	0287-36-0028
○ 木曜日	塩原/塩原カントリークラブ	0287-35-2211
○ 木曜日	大田原中央/勝田屋記念会館	0287-23-4165

近隣クラブ例会日

○ 木曜日	大田原/ホテル龍城苑	0287-24-2525
○ 木曜日	那須/ホテルエピナール那須	0287-78-6000
○ 金曜日	黒羽/ホテル花月	0287-54-1105

会報委員会：田中 徹・藤崎善隆・鳥居輝一